

地域の将来像：住んでいる人々が誇れる郷 明日の小山田の創造

コミュニティだより

2024.3.15
第73号

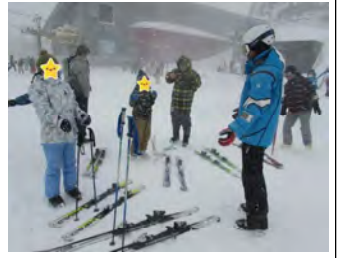
明日の小山田を考える会の目的は、住んで良かった・ずっと住み続けたい・住み良い地域を創ることです。そのためには、地域の皆さんの積極的な関わりが必要です。

白銀のパウダースノーの広いゲレンデを



1月13日夏油高原スキー場を会場にスキー・スノーボード教室を開催しました。当初は鉛温泉スキー場を計画していましたが、スキー場開きをしたものの積雪が少なくリフトの営業開始とならず会場を変更しました。当日は小

中学生の親子・指導員等を含め25名の参加者でした。小雪と風で絶好の滑走日和とは言えない一日でしたが、そんな天候をはねのけ、スキーの初心者、初級・中級、スノーボードと分かれて指導を受け、教室が終わる頃にはリフトに乗り上からの滑走を思う存分楽しんでいました。また、今年は未就学児の参加もあり、初めて履いたスキー靴に重いつか、スキー板が滑って前に進めないとか、一緒にいたお母さんは困りながらも我が子のしぐさに大笑いでした。参加された皆さんは賑やかで楽しい一日を過ごしたことでしょう。



帰りのバスの中は皆さん疲れたのか、朝とは違って静まり返った車内でした。(.-.)y°°° 白銀のパウダースノーの広いゲレンデをさっそうと滑っている夢でも見ていたのかな？



将来の小山田の農業を支える若者たち part 4



今年度の「地域農業担い手育成塾」は塾生8名の参加のもと2月24日に最終を迎えました。今回は塾長を努める薄衣忠孝氏より「中山間地域農業の今後」についてをテーマに講話をいただきました。「小山田地域の現状を分析し課題を明確にし、現状のままの5年後・10年後の農地は…、農業労働力は…、担い手は…、集落機能は…、を予測する必要

がある。現状を維持するだけでは農業はおろか集落機能も衰退し、集落破壊の危機にも繋がる。農業！を、地域！を再生する強い意志をもった若い世代のアクションが必要だ」と話していました。また、小山田地域には中山間地域故に、他にはない土地条件、有形無形の資源が山ほどあるので、知恵を出し合い、工夫をし、面白い有益な展開をしてほしいとも話してくださいました。講話終了後、「小山田地域農業の目指す方向性」をテーマに2グループに分かれ、ワークショップ形式で課題の洗い出しを行いました。塾生から「同じ地域にいても話す機会が無かったので良かった。来年も引き続き開催してほしいし、もっと仲間を増やしていきたい。」と意欲ある意見が寄せられました。



子どもたちが伝える地域の郷土芸能

恒例となっている「後継者育成郷土芸能発表会」を2月11日に小山田振興センターを会場に東和地区教育振興運動実践協議会小山田支部と共催で開催しました。当日は地元市議会議員をはじめ、東和中学校長、東和町芸術文化協会長のご臨席をいただきました。小山田地域で受け継がれている芸能を子どもたちが日頃の練習の成果を力いっぱいステージで披露してくれました。地域内外から大勢の皆さんが来場し終始拍手を送っていました。また、今回初めて子どもたちから演目の紹介をしてもらいました。



演目の紹介をする児童



○ 石鳩岡
《石鳩岡子供荒鷲太鼓》
平成2年に発足した創作和太鼓の演奏「合わせ太鼓」「荒鷲太鼓」の二演目を披露

○ 前田、留ヶ森、古田
《御祝い》
様々な宴会の席で歌われている「祝い唄」



後継者育成郷土芸能発表会



○ 秋葉、駒形、中川目、南川目
《こきりこ「田植え踊り」》
旧小山田小学校運動会で毎年踊られていた、こきりこ「田植え踊り」

○ 外谷地、北小山田
《外谷地太神楽田植え踊り》
その年の豊作を祈り、農作業の様子を踊りに表現した演目の中の「こきりこ踊り」と「笠ゆり」



小山田保育園児「神楽」



中学生/石鳩岡神楽「鶏舞」



中学生/石鳩岡神楽「三番叟」

人口減少問題に取り組む地域を訪ねて

少子化問題に取り組んでいる県内の二つの集落を、1月28日と2月15日の2日間に分け、各専門部の部員さん方を対象とした研修を行いました。どちらの団体も地域に住むことの誇りと喜びのもてる集落づくりに、地域の特徴を活かした活動に取り組んでいました。

『自分たちが住む地域は自分たちの手作りで！』

■ 第1回/1月28日(日) 二戸市浄法寺町門崎 「浄門の里づくり協議会」の村づくり



会長の佐藤勲悦 氏

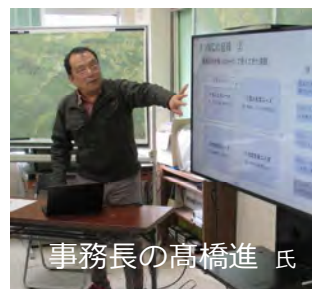


岩手県最北部二戸市の中心部から西方に位置し、浄法寺町の南の玄関口にあたる山地に囲まれ安比川が流れる平地に17世帯が暮らす小さな山里の集落。若者がお盆や正月、農繁期でも集落に帰って来なくなった事で、このままでは村が廃れるとの危機感を感じ行動を始めたそうです。産直を立上げ自家消費向けの産物で所得向上や、生活・環境の整備、都市住民との交流、地域への定住促進など様々な取組をしながら「若者が快く農業に従事できる環境」、「所得向上に繋がる農業経営」、「余暇を利用した住民交流」など、住民がここに住んで良かったと思える地域づくりを目指しています」と話していました。

■ 第2回/2月15日(木) 奥州市衣川小田 地域の拠点北股地区センター「北股地区振興会」



会長の阿部睦雄 氏



事務長の高橋進 氏

奥州市の30地区振興会組織で最も人口が少ないなか、個性がキラリと光り輝く地域づくりをして行きたいと会長の阿部さんは話していました。スローガンに「心豊かに自然と調和する、誰にも優しく懐かしい、住みたい・住み続けたい北股」を掲げ地域全体で取り組んでいるとの事でした。また、事務長の高橋さんからは、中山間地域等直接支払制度の加算措置を活用した、岩手県立大学学生による農作業や用排水路の堰払い、除雪作業などのボランティア活動と地域をあげての学生や若い世代との繋がりや交流に取り組んでいる内容についてお話をいただきました。

今年も運動会開催の年でーす!

小山田地域を一堂に会しての運動会は、新型コロナウイルス感染症の発症や拡大等により令和元年に開催して以来の開催となります。より多くの地域の皆様にご参加いただくために、競技を一新し開催したいと思っておりますので、皆様方からのご提案をお願いいたします。様式は問いませんのでFAX又は直接電話(42-2941)でご提案ください。お待ちしております。

皆さんで運動会を盛り上げましょう!!
今年はどこが優勝するのかな。



第7回(令和元年度)運動会総合成績表

順位	行政区名
優勝	第4行政区
準優勝	第1行政区
第3位	第3行政区
敢闘賞	第2行政区

〈 第7回/令和元年度 大運動会の様子 〉

★今年度の各種団体への地域づくり交付金の支援内容を紹介します。

○地域史跡等環境保全補助事業

■小原栲山公園（外谷地）



■軽井沢つつみ公園（前田）



○中核農業者研修事業

小山田の明日の農業を語る会
有害獣防止対策研修（遠野市綾織）



○農産物加工施設経営研修事業

小山田美女会 郷土料理の伝承活動
京津畑郷土やまあい工房の視察
（一関市大東町）



○公民館施設整備助成事業

■石鳩岡振興センター/家電調理器具
（電子レンジ、ポット）



* 地域での各種交流会
や料理講習会等で使用
するため新規調理器具
購入に対する支援

■南川目公民館/会議用長テーブル（5脚）



* 地域住民の高齢化に伴い座
卓テーブルでの会議等が困難
になったため会議テーブルの
新規購入に対する支援

■前田公民館/ブルーヒーター



* 現在使用中の石
油ストーブの故障
による新規購入に
対する支援

■留ヶ森公民館/エアコン



* 施設の夏季時使
用の暑さ対策と熱
中症予防のための
新設に対する支援

■北小山田公民館/屋根塗装



* 施設トタン屋
根の劣化防止の
ための塗装に対
する支援

○消防水利用堤整備事業（第1行政区自治会）
石鳩岡5区地内溜池浚渫（泥土除去）

○市道側溝蓋設置事業（第4行政区自治会）
外谷地5区地内市道側溝
市道北小山田小山田駅前線 80M

令和6年2月末現在

（ ）：前月比

小山田の人口	世帯数/戸	男/人	女/人	計/人
第1行政区	55 (0)	78 (-1)	66 (-1)	144 (-2)
第2行政区	144 (0)	189 (0)	185 (0)	374 (0)
第3行政区	151 (0)	196 (0)	222 (0)	418 (0)
第4行政区	111 (-1)	168 (-2)	158 (-4)	326 (-6)
計	461 (-1)	631 (-3)	631 (-5)	1,262 (-8)

※花巻市住民登録人口集計表を基に作成しています



ずらりと並んだ花巻人形
（吉田正人宅 / 外谷地）

～ 編集後記 ～

3月1日、岩手県の公立高校では卒業式が執り行われましたね。東和地域では13日に東和中学校、16日に東和小学校の卒業式があります。高校・中学校は3年間ですのうであっという間だったなあと感じる保護者さんもいることでしょうか。小学校は6年間、倍の年月を過ごします。小さな背中に大きなランドセルを背負い、黄色い帽子をかぶって登校した子も、今では身長もスラッと伸びて軽々ランドセルを背負って行く後ろ姿を見るたびにたくましくなったなあと感じます。春にはそれぞれ新しい環境でスタートする東和の子どもたち Fight!! (多田)

発行：明日の小山田を考える会 電話：0198-42-2941
ホームページ：http://www.asuno-oyamada.jp
メールアドレス：asuno-oyamada@tuba.ocn.ne.jp